

2023年度 授業改善推進プラン（中間報告）

学力調査等の状況	
令和5年度全国学力・学習状況調査の結果、国語は平均正答率が都より8ポイント、全国より6.8ポイント下回っており、読み書きを中心とした授業を展開している。数学は、平均正答率が都より11ポイント、全国より8ポイント下回っており、下降傾向にある。習熟度別少人数指導で基礎・基本の徹底を図る。英語は、平均正答率が都より10ポイント、全国より3.6ポイント下回っており、基礎学力の定着と「話す力」「聞く力」を習熟度別少人数指導で補う必要がある。	

見えてきた課題	
<p>数学と英語では習熟度別少人数指導を実施しており、ICTも活用しながら興味・関心をもたせ、引き続き下位層生徒への丁寧な指導が求められる。ほとんどの生徒が授業には真面目に取り組んでいるが、令和5年度都学力調査では、全学年で数学が「ほとんど分からない」と回答した生徒が21人(全校生徒の7.4%)、英語で32人(全校生徒の11.3%)いた。このことから、より分かるを目標とした、授業内容、単元を貫く発問等による授業構成の工夫・改善をしていく必要がある。さらに家庭学習の定着を目指し、学習ボランティアによる木曾塾、湧志自学塾も活用し、基礎・基本の徹底を図ることが本校の最重要課題である。</p>	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	導入での課題提示など一斉学習の場面で活用する。表現・制作、発表・意見交換など協働学習で活用する。
価値ある対話の共有	生徒一人ひとりの考えを導き出し、共有することで学習課題の理解、課題解決につなげる。
認め合う・学び合う集団の形成	日頃の指導により学級内の望ましい人間関係を確立し、生徒が互いに認め合い称賛しあえる集団を形成する。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○語彙力の向上、漢字の習得、言葉のきまりの理解をねらいとして、小テストや反復練習の課題を実施する。 ○目的や場面に応じた表現力の向上を目指し、小グループでの話し合いや発表の場を数多く設定する。 ○読書の時間を設定し、積極的に読書に取り組む姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字小テストに継続的に取り組むことで、全体としては基礎的学力が身に付いてきている。今後は学習意欲が低い生徒への意識付けを行うことで、全体の底上げをする。 ○話し合いに前向きに取り組むようになり、発言も多くなってきている。 ○読書には積極的に取り組む姿が見られる。今後は日常生活でも読書に親しむよう促している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の小テストの結果が伸びてきた。しかし、まだ知識の定着には至っていないので、継続的な学習が必要である。 ○挙手による発言が多く、意欲的であるので、関心を高める授業展開になるよう今後も工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の小テストや書き取り練習に前向きに取り組んでおり、語彙力も年次が上がることに向上している。 ○話し合い活動に積極的に取り組んでいる。自信のない課題では、失敗をおそれて発表できないことがある。また、論理的な文章の理解に課題があるので、積極的に学習課題に取り入れる。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な学力を土台として、社会的なものの見方や考え方を習得するために、小テスト等の振り返り活動を入れて基礎的な力を身につける工夫を行う。 ○社会的な見方や考え方は、個別学習として自分の意見をしっかりと述べ、グループで意見の交換を行い、様々な視点を共有し、再び個別で考える機会を設けて、思考力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の内容を自分で主体的にノートにまとめ、疑問やわかったことを記入することで、学びを深める。 ○基礎・基本の知識を活用して課題を解決する力、様々な資料や考え方を組み合わせる力を養う。 ○ICTを活用し、映像資料を使い、視覚的な面で興味・関心や理解を深めていく指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の知識の定着とそれを活用して課題を解決する力、様々な資料や考え方を組み合わせる力を培う。 ○思考・判断・表現力は、生徒に差があるため、他者との対話的活動を行い、様々な意見から考えをまとめ、積極的に活動を行う。 ○既習したことを次の学習に活かす活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公民的分野では、基礎的な知識の定着に重点を置き、学習指導を進める。 ○地理や歴史の復習の時間を定期的に用意し、資料の読み取りの能力を育成する。書画カメラを導入し、分かりやすい授業を実施する。
数学科	<ul style="list-style-type: none"> ○まず第一に基礎的な計算力を身につける。そのために、小テスト等を活用し、実践訓練を繰り返し行う。その上で思考力を高めるための学習を行う。 ○グループ活動等を取り入れ、できる限り自身の力で解けるよう工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎となる正負の計算をしっかりと行い、文字式、方程式と積み重ねてきた計算を繰り返し行いながら、更に比例、反比例の問題を通して発展させていく。 ○自分で考える方程式の応用問題の時間を活用し、文章を読み、解法に何が必要なか適切に選択できる力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎計算となる一次式の計算、連立方程式の計算を繰り返し行い、積み重ねた。小テストを行い、基礎の定着を図った。文章題では、式をたてられるように時間をかけて学習する。 ○各自で考える時間や他者と相談する時間を取り、文章題を理解し、考える思考力と話す表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多項式の計算、平方根の計算、二次方程式の計算は繰り返し行い、積み重ねた。文章題では計算以外の部分を時間をかけて学習する。 ○発問に対し、自分の言葉で説明することで、考えを整理し、思考力を高める。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な科学的現象を授業の中で扱いつつ、実験や観察をより多く取り入れた授業展開を図り、科学的なものの見方や考え方の習得を目指す。 ○グループ活動の場を設定し、グループでの意見交換を行いながら思考力・表現力の向上を図る。 ○小テストの有効活用により基礎的学習内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○説明だけではなく、実物に触れる機会をふやし実験を通して理解を深めるよう指導する。また、映像を使って説明を補助することで理解を深める。 ○考えを共有し、話し合うことなどでただ知識を得るより、論理的に思考して、答えにたどりつく経験を得られるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験や観察を多く取り入れ、グループでの思考を大切にしてい、実験内容を考え、取り組む。 ○映像などを活用することで、理解を深め、基礎的学習内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験や観察の時は、観察するポイントを説明し、しっかりと経験から得られる情報量を増やし、論理的に考えをまとめられるよう指導する。 ○学習していることと、実生活の繋がりを増やす機会を増やすことで、理科の有用性に気づかせ、学習意欲を高める。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な手立てを用いて単語や文法など基礎基本の内容の習熟を徹底する。そのために、基本単語や英文の確認テストをおこなっている。 ○クラスの実態に合わせて文法指導や会話活動を充実させ、コミュニケーション能力を高めている。また、実践的、実用的な活動を心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業と家庭学習での復習のサイクルをつくり、学習内容の定着の確認のため、各パートでスピーキングテスト、各単元でディクテーションテストを実施している。 ○音読活動を中心に表現活動を毎時間設定し、表現する力を伸ばすことができるよう工夫している。 ○絵を見て、場面を想像しながら状況やセリフを考えて発言する活動を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとに、リスニングテスト、ディクテーションなど、音声によるテストを実施している。 ○音読活動を中心に、表現活動を毎時間設定し、表現する力を伸ばすことができるよう工夫している。 ○絵を見て、場面を想像しながら状況やセリフを考えて発言する活動を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業と家庭学習での復習のサイクルをつくり、学習内容の定着の確認のため各パートでディクテーションテストを実施している。 ○各パートでの自己表現活動を行い、身近なことについて進んで表現できるよう指導を継続している。

⑮-2 授業改善推進プラン（中間改善計画）

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
音楽科	○授業規律、授業内容の周知徹底を今後も継続する。授業者の観察眼を深め、関心意欲態度等を詳細に把握し、的確な指示を出しながら、個の力が向上しているか、主体的に取り組めているか、一人一人の実技試験も実施していく。歌唱、器楽も教え合う活動を取り入れ授業展開をさらに深化させる。	○授業規律、授業内容の周知徹底が身に付いてきたので、今後も継続する。授業者の教材の事前吟味、研究等これまで以上に深化させ、一人ひとりの関心・意欲・態度が向上するように努める。 ○歌唱、器楽も教え合う活動を、これまで以上に取り入れ、個の力が成長するような授業展開を構築し、さらに深化させる。	○歌唱、器楽等の表現活動においても楽曲の作られた背景、心情を大切に、授業者の教材の事前吟味、研究等これまで以上に深化させ、一人ひとりの関心・意欲・態度が向上するように努める。 ○歌唱、器楽も教え合う活動をこれまで以上に取り入れ、個々の力が成長するような授業展開を構築し、3学年への進級に見直しをもてるようにする。	○歌唱を始めとする表現活動において、合唱コンクールへの取組で身に付いた、教え合う活動、自主的によいものをつくり上げていこうとする態度を育てる指導を継続し、さらなる個々の力が成長するような授業展開を構築し、卒業期への見直しをもてるようにする。
美術科	○基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、主体的な創作活動に取り組むことができるように授業形態を工夫する。	○1学期のレタリングは一斉指導で時間内に取り組めた。色彩構成や木版画になって、制作進度に差が出てきた。進捗が早い生徒には、木版画の2枚目に色画用紙に刷らせ、発展的な内容に取り組ませ、支援が必要な生徒には、彫りのポイント(深さ・彫刻刀の持ち方)を伝え、重ね刷りの部分を指定していく。	○制作や作業の進度に差が出てきた場合、凹版画において、進みが早い生徒には、発展的な内容として、色画用紙に刷ってコラーージュを取り入れ充実させる。支援が必要な生徒には、線・点の積み重ねを限定し、腐食を終え、刷りの作業へと手順をお互いに学び、主体的に制作できるように見直しをもたせる。	○丁寧な作業をする生徒が多いが、その分進みが遅れ気味になるが、ニス仕上げに進んでいる。次の陶板スクラッチの課題は写実的な表現を目指すため、試作を同時に取り組ませ、相互に表現を見合い、他からよさを学び取り、主体的に自作品に活かすよう促していく。
保健体育科	○基礎的・基本的な知識を軸として、理論的・合理的な体の動かし方などの技能を定着させる。そのために授業規律を基本として、一人ひとりに合った声掛けや助言を通して、生徒の関心意欲を高める。生徒個人での理解や技能の習得で終わるのではなく、グループ活動やペア活動の充実を図り、互いに学び合う姿勢を高める。言語活動を充実させる中で、視覚教材を効果的に用いて生徒の理解の充実を図る。	○全体的な能力向上のため、個別練習や個別の課題を設けながら、苦手な生徒の支援をしていく必要がある。 ○全体のレベルが上がるように目標設定を妥当なものにする。 ○家庭でもできる課題を個々に与えることで、イメージトレーニングの重要性を示し、意欲をもたせて行えるようにする。	○全体的に能力向上のため、個別練習や個別の課題を設けながら、苦手な生徒の支援をしていく必要がある。 ○全体のレベルが上がるように目標設定を妥当なものにする。 ○到達度の目標やレベルを示すことで意欲をもって、課題に取り組む姿勢を培えるよう指導する。	○個別練習や個別の課題を設けながら、苦手な生徒の支援を行う。 ○全体のレベルが上がるように目標設定を妥当なものにする。 ○集団として技術的にも精神的にも全体のレベルが上がるような、グループ学習を中心に行い、客観性を維持しつつも個々の能力向上も目指す。
技術・家庭科	○生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や、持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し、創造する資質・能力を育成することを旨とする。特に、グループ活動やペアワークを取り入れた授業を行うことにより、生徒の「思考力・判断力・表現力」等の能力の向上を図る	○全体的に授業への取り組む姿勢がよく、説明の理解ができる生徒は多い。板書のスピードには個人差があり、ノートの色使いができていないところがある。日々の授業の中で、声掛けをしていく。 ○作業の早い生徒と支援の必要な生徒がいるので、生徒の教え合いができる雰囲気になるよう指導していく。	○全体的に集中して取り組めるようになってきた。学習面は頑張る生徒とそうでない生徒で二極化している。ただ、少しずつ頑張っていて取り組んでいる。まだ継続的に学習の支援が必要な生徒もいる。 ○作業の早い生徒と支援の必要な生徒がいるので、教え合いの雰囲気づくりを継続する。	○全体的に授業や提出物など一生懸命取り組んでいる。学習面や作業面でこのまよい状態で取り組めるように支援していく。 ○作業の早い生徒と支援の必要な生徒がいるので、継続して教え合い雰囲気づくりを行っていく。
総合的な学習の時間	・学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的・創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。 ・各教科で身に付けた知識や技能を相互に関連付け、学習や生活に活かす。	・自己肯定感を高める。 ・探究的な学習の基礎を知り、課題の見つけ方や、解決方法を学べるように指導する。 ・発表活動を行い、表現力を高める。 ・ICT機器も活用し、社会にある職業を知ることができるよう、工夫ある時間の設定をする。	・地域学習を通し自主自律の精神を培う。 ・ICT機器も活用し、発表の機会を多く設け、表現力や発表力を培う。 ・将来の社会人としての責任・職業観・進路についての認識を深める。	・ICT機器も活用し、キャリア教育を軸として、自分の個性や適性に気づき、自らの生き方を見いだせるよう指導する。 ・諸課題の解決に主体的にかかわり、自己実現を図る能力を培う。 ・今後の自己の生き方に展望をもつことができるよう指導する。
特別の教科道徳	(1年) 自己の確立を図り、礼儀や集団生活の向上をめざす。 (2年) 規範意識を確立し、思いやりの心を育てる。 (3年) 自己理解を深めるとともに、よりよい社会を実現する精神を養う。	・題材の工夫や発問を吟味し、自律的生活、礼儀や集団生活の向上を目指す。	・様々な価値観を考えられる教材を使い、よりよい価値判断ができるよう指導していく。 ・規範意識を高め、思いやりの心を育てる。	・自己理解を深めるとともに、よりよい社会の姿を考え、実現する精神を培えるよう指導する。
特別活動	・集団の一員としての自覚を高め、望ましい人間関係や個性の伸長など、よりよい生活を築こうとする自主的・自律的・実践的な態度を養う	・中学生としてのあり方や生活を理解し、自ら判断し実践しようとする態度を育てる。	・集団生活の意義やあり方を理解させ、自主的、自律的に行動する態度を育てる。	・充実した学校生活を過ごせるように、人間としての生き方の自覚と自分の特性を生かす能力を育てる。